

- 文理科の日常
- 三人ムスメのゆかしきこと
- 現役文理科生寄稿
- 教員コラム

合格体験記 8 『今を見つめる』



鹿児島大学 教育学部初等教育
後藤 匠真 さん

—大学生活はどうですか。

最近は一入暮らしにも慣れて自炊するようになりました。お弁当にも挑戦していて、卵焼きを極めています。

そして今は、教科の選択に迷っています。鹿大の教育学部は二年から各教科に分かれるので。家庭科が国語かなと思ってるんです。特に家庭科は大学に入って授業を受けてたら、いろいろ興味深くて。

—面白い授業はありましたか。

家庭科の授業で子どもの表記についての話があったんです。ずっと「子ども」だと思っていたのが正式な文書なんかでは「子供」で書くことを知りました。なんか、自分の常識だけで物事は見えないなって思いました。

それから、やっぱり鹿児島なので、「稲森和夫の経営哲学」という授業があって、経営の事例とか考え方とかそういった内容を想像していたんです。でも、もっと本質的な、人としての在り方から考える内容でした。鹿児島県民なら誰もが知ってる経営の神様だけど、しっかり学んだことが無かったので、面白かったですね。自分のあり方も考えさせられました。

—サークルには入りましたか。

新聞部に入りました。発行する新聞は学内や関係各所に配付しています。れいめいにも僕の書いた記事が載ってる新聞を送ったんですよ。

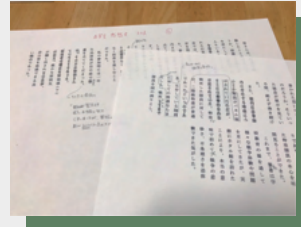
普段は、先輩たちがまとめた記事や、社会問題に対して、みんなでディスカッションしたりしています。新聞記事を読んでいるだけで、政治や社会情勢の知識も表面的だったのが、深まりましたね。自分の意見をもっていないといけないので、今何が起きているのか、人は何を考えているのかよく見るんです。

それに、政党とか政策とか具体的な知識を持って見てみると、それまでと全然見え方が違うんです。なんとなくで考えなくなりました。

—後輩へメッセージをお願いします。

僕は、高校入学の時にあまり良い成績じゃなかったんです。でも、自分の現状をよく見て、やるべきことを考えて、初めは受験を意識せずに、必要なことをこつこつ身につけたことで、合格できたと思っています。

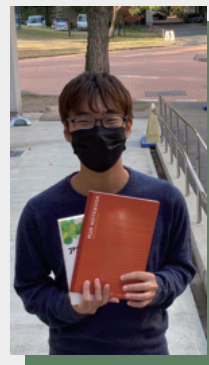
大学に入ってから何度も気づかされていきますが、今がどういう状態なのか見つめることが大事だと。なんとなくじゃなく今のことを考えて、認めると、下を向かずにしっかりと前に進めるんじゃないかと思っています。



◀新聞部の活動中
多くの情報に囲まれ作業する
感染症対策も万全

◀作成途中の原稿

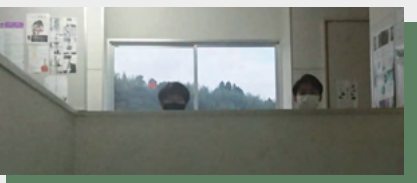
大学構内
手に持つのは
教科書とノート
現在もこつこつと
努力をしています▶



手作り弁当
なるほど綺麗な
卵焼きである▶



文理科の日常



これはその昔、最上段の踊り場で勉強していた先輩たちが難関大学に受かっていったという伝説をもとに設置されたという噂である。

休み時間や放課後になると、気分転換や一人でも勉強したい時などに利用する生徒がやってくる。

各学年の教室近くに設置されているが、学年ごとに使用場所が指定されているわけではない。先輩の教室近くのスペースに行つて、窓を開け、教えを請うと、快く教えてもらえるらしい。

アナタも通りがかった際にはぜひどうぞ。



「難関大に受かる席？」

文理科には廊下や踊り場の数か所に机とイスが設置されている。



このコーナーは文理科に通う「ももこ、くるみ、あやね」の三人ムスメ(仮)が、中高生の気になることを紹介していく、とても自由なコーナーなのである。ちなみに「ゆかしき」とは「見たい・聞きたい・知りたい」という意味の古語である。



修学旅行のこと

も 修学旅行楽しかったね
今号もスペースが少ないから感想を述べましょう。
く 桃子が清水寺の恋占い石に挑戦したけど目を開けてしまつて、焦つてやり直してるのが面白かった。必死だったね。
も 京都には縁結びで有名なスポットがいくつかあるからたくさん祈つたよ。奈良公園で鹿せんべい持ってたから、鹿にモテモテだったからご利益はあったかな。
あ 鹿がいたるところでくつろいでたね。ああ平和だなと思つたよ。京都では、金閣寺が迫力あったな。もっと近くで見たかった。
も 予想よりも金ぴかだったね。
く 迫力といえば、奈良の東大寺盧舎那仏だね。下から見ることを考えて、頭を大きめに作つてあるんだってね。
あ 各所で発見があったね。実際に現地で学ぶと満足感が違うね。

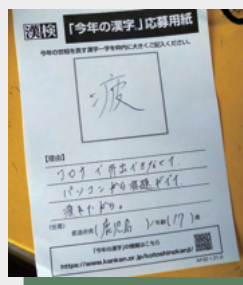
本日のまとめ

○京都も奈良もステキ
○努力した人はいっぱい

鎌田さんとの集合写真
※HPにも掲載中



も 歩きすぎて、足が棒どころか延べ棒になったけど、「変なホテル奈良」がステキな部屋で癒されたな。
く 帰りの飛行機で最後びっくりしたよね。
あ そう。副操縦士の方がれいめいの卒業生だったね。
も ○○の鎌田さん。かつこよかったし、機内で「夢に向かって努力してください」というアナウンスが流れて感動しちゃった。



清水寺で応募した今年の漢字「疲」

是日 文理科

現役文理科生寄稿

「スポゴミ甲子園」
文理科1年(川内北中)
坂元 夢叶

優勝するつもりだった。優勝すれば東京。田舎の女子高生には憧れの場所。でも出来なかった。きつと一番の原因はバスを乗り過ごしたことだ。「スポーツゴミ拾い甲子園」に参加するために、鹿児島中央駅から会場を目指して、友達と二人でバスに乗り込んだ。私たちは、目的のバス停からさらに先、先の先のそのまた先で、運転手さんに聞いて初めて気づいた。どうしようもなく、先生に電話して迎えに来てもらう。開始時間に間に合わなくて、チームの成績は最悪。それでも優勝して東京に行けなくても、良かったと思ってる。

初めて参加したスポゴミ甲子園は、私のヨコシマな気持ち綺麗にしてくれた。参加者はみんな笑顔だし、遅刻した私たちにも優しく話しかける。ゴミを拾う、ただそれだけだけど、同じ目標を持った人が集まると、会場は小一時間できれいになった。しかし、ただゴミを拾うだけで楽しかった。

先生に、友達に、初めて出会った人に助けられて、ゴミ拾いをしながら地球も綺麗になったけど私の心も綺麗になった。東京に行けなくても、またゴミを拾おうと思う。来年はバスの時刻表を穴が開くまで確認しよう。

リレーコラム

毎号、文理科の教員がコラムをリレーしていきます。

『Flat white』



文理科2年生副担任(英語) 吉田 早希

日本にはないおしゃれなものが飲みたい。「Flat white, please」ニュージールランドではよくあるコーヒーの飲み方で注文をした。一分後、私はホットチョコレート트를飲んでた。

これはニュージールランドに短期留学をした2日目のことである。たった3単語、いや2単語なのに、通じなかった。悔しくて悲しくてその夜は「Flat white」の発音をたくさん練習した。

語学学校にはいろんな国から年代も服装もバラバラな人たちが通っている。韓国から来た友人はアメリカで看護師になるのが夢で、今年から働き始めている。彼女は自国の経済状況や政策にも詳しくて、いろいろなことを教えてくれた。そんな友人に憧れたし、同時に自分が恥ずかしくなった。

知らないことが悔しかった。でも、そんな自分と出会って、不思議とワクワクしていた。次は何を知れるんだろう。足りない自分は少し嫌だけど、それを補えた時の自分は割と好きになれた。

勉強するということは自分が知らないことに出会うということだと思つた。点数をとるため、合格するための勉強もある。しかしそれが目標になると少しつまらない。たくさん勉強すればするほど、新しい自分、知らない自分と出会える。そう思えば、解けない問題も怖くない。

「Flat white」は苦かった。以来、何か新しいことに挑戦するとき、「Flat white」よりは苦い思いをしないうら」と、勇気をくれる存在になっている。